

- ゴールデンスピリット賞 歴代受賞者**
- 第1回(1999年) 松井秀喜
 - 第2回(2000年) 片岡篤史
 - 第3回(2001年) 中村紀洋
 - 第4回(2002年) 飯田哲也
 - 第5回(2003年) 井上一樹
 - 第6回(2004年) 赤星憲広
 - 第7回(2005年) B・バリンソン
 - 第8回(2006年) 和田毅
 - 第9回(2007年) 三浦大輔
 - 第10回(2008年) 若原久志
 - 第11回(2009年) 小笠原道大
 - 第12回(2010年) 引込川有
 - 第13回(2011年) 山崎武司
 - 第14回(2012年) 藤川球児
 - 第15回(2013年) 宮本慎也
 - 第16回(2014年) 栗山巧
 - 第17回(2015年) 今江敏晃
 - 第18回(2016年) 内海哲也
 - 第19回(2017年) 岩田稔
 - 第20回(2018年) 井口資仁
 - 第21回(2019年) 秋山翔吾
 - 第22回(2021年) 矢野燿大
- ※所属チームは受賞当時、2020年はコロナのため開催延期

「サポートの岡田氏 行動力もすごい」

吉田正の活動をサポートするNPO法人「ゴールデンスピリット」の岡田真理代表は、その意識の高さに頭を下げる。支援先の子どもたちが吉田正を応援する写真をLINEで送ると、「1打席も無駄にできないという気持ちになった」と感想を漏らしたという。モチベーションが上がり、活動初年度の2019年にキャリアハイの29本塁打を放つなど、間違いなく競技にも生

きていた。2020年、コロナで必要な物資が足りず、現地の子どもたちが困窮している状況を知り、「すぐ振り込みます」と100万円を寄付した。「受益者に会えない状況にもかかわらず、自分事にして当たり前のように寄付を送るその行動力もすごい」と感服する。

また、国境なき子どもたちの松浦は、理事は「オリンピックの試合がテレビで流れ、現地の子どもたちも必死で応援した。お互いに応援し合っことができて」と感謝の思いを語った。

世界の貧困なくす ゴールデンスピリット賞

GOLDEN SPIRIT AWARD

正尚弾



16年受賞 敦賀気比の先輩 内海さんに続いた

「野球選手として何かしらの貢献ができたかった」

長嶋さんからメッセージ

「……同賞の創設時から選考委員を務めている長嶋茂雄・読売巨人軍終身名誉監督(86)は療養中のため、選考委員会を欠席した。選考委員では長嶋氏から各委員あてに寄せられた「この数年来、プロ野球の選手たちがさまざまな形で社会貢献につながりつつあるのを感じています。今回も賞にふさわしい選手が誕生することを楽しみにしております」との文書が読み上げられた。

ゴールデンスピリット賞を受賞した田中浩二(左)と正尚(右)が握手を交わす。写真提供：ゴールデンスピリット賞実行委員会

開発途上国の子どもたちへ本塁打1本10万円と募金届けた

プロ野球人の社会貢献活動を表彰する報知新聞社制定「ゴールデンスピリット賞」の第23回受賞者が14日、オリックス・吉田正尚外野手(29)に決定した。2019年から公式戦でのホームラン1本につき10万円と、ファンからの募金を合わせて寄付金とし、認定NPO法人「国境なき子どもたち」を通じて開発途上国で貧困に苦しむ子どもたちへ寄贈。継続的に取り組んでいることなどが評価された。表彰式は12月2日、都内で行われる。

日本に貢献。シーズンオフに届いた知らせは「球場外のMVP」だった。2016年の入団当初から社会貢献を思い描いていた。「先輩方の活動も知っていた。野球選手として、何かしらの貢献がしたかった」と。16年は、本業ではパ・リーグ連覇と26年ぶりの

いた内海哲也さん(当時巨人)が受賞。敦賀気比高(福井)の先輩だ。自身がプロでレギュラーとして地位を固め、行動に移したのは19年。「ホームラン基金」の始まりだった。

「そんな点差や、魅力な打席であっても、ホームランは魅力があつて特別なもの。自分の中でもモチベーションになると思っています」。公式戦での1本塁打につき10万円に、ファンからの募金を加えた寄付金を認定NPO法人「国境なき子どもたち」へ贈っている。選手などの慈善活動をサポートしているNPO法人「ベースボール・レ

ジェンド・ファンデーション」(B)の協力があつた。

現地応援動画が励み

具体的な支援を決めたきっかけは、あるテレビ番組だった。ストリートチルドレンについて知った。「子どもたちが餓死していく映像とかを見ると……」。言葉に詰まり、カンボジア、フィリピン、パングララシなど開発途上国で貧困に苦しむ子どもたちを知りやっていた。「野球の良さ、思いを持ってもらいたい。19年に自己最多となる29本塁打を放ち、今季まで計85本塁打

あるテレビ番組だった。ストリートチルドレンについて知った。「子どもたちが餓死していく映像とかを見ると……」。言葉に詰まり、カンボジア、フィリピン、パングララシなど開発途上国で貧困に苦しむ子どもたちを知りやっていた。「野球の良さ、思いを持ってもらいたい。19年に自己最多となる29本塁打を放ち、今季まで計85本塁打

通算133発 ▶吉田 正尚

(よしだ・まさたか)1993年7月15日、福井県生まれ。29歳。敦賀気比高から青学大を経て、2015年ドラフト1位でオリックス入団。20、21年に首位打者、今季は2年連続2度目の最高出塁率。ベストナイン4度。19年プレミア

第23回ゴールデンスピリット賞選考委員会

大塚 義治 日本赤十字社 名誉社長

齊藤 博 野球コミッショナー

佐山 和夫 ノンフィクション作家。米大リーグに造詣が深い。ゴールデンスピリット賞の提唱者の一人。

2021年野球殿堂入り。

長嶋 茂雄 読売巨人軍終身名誉監督。現役時代のチャリティー活動が評価され、1982年に日本のプロ野球人として初めてロスマ法王ヨハネ・パウロ2世に謁見(えっけん)した。88年パチカ市国からパチカ有功十字勲章を受章。

一屋 裕子 日本バスケットボール協会会長。パレオール女子日本代表としてロス五輪銅メダル。

依田 裕隆 報知新聞社社長(敬称略・50音順)

独立性を推す意見が相次いだ。また、自身とフルベリンの成績に合わせた寄付などに取り組み宮西選手は「社会の分断が懸念される中で、周囲につながることをチームとして」(大塚)

的に社会貢献活動を続けている人を表彰する。毎年1回選考委員会(委員名別掲)を開いて、球団推薦やファン投票などで選ばれる。また受賞者が指定する団体、施設などに報告し、200万円を寄贈する。

○阿部雄二賞 本賞を第1回から協賛している株式会社アイ・インベストメントの代表取締役社長・阿部雄二氏が2001年4月9日に逝去したことを受け、報知新聞社が「阿部雄二賞」を創設した。

レイアウト 近藤 清敬

わたしたちはゴールデンスピリット賞を 応援しています

株式会社 アイ・インベストメント

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

保険情報サービス株式会社 Insurance Information Service

株式会社 岡田製作所

Tōyō GROUP 株式会社 トーヨーホールディングス